

科目ナンバー	ANT-2-001-k			科目名	文化人類学		
教員名	鈴木 鉄忠			開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
概要	文化人類学は、「人間であるとは、どういうことなのか?」という根源的な問いをめぐって展開されてきました。そしてこれまでに明らかにされてきたのは、人は生き延びるためにあまねく「文化」を創り出したこと(文化の普遍性)、しかしそうした「文化」の現れ方は、環境や時代によって実に多種多様であること(文化の多様性)でした。 この授業では、文化の「普遍性」と「多様性」を両輪としながら、以下のトピックスを取り上げます。 ①「文化」とは何か、文化人類学の独自の視点とは何か ②人間集団にあまねくみられる「贈与と交換」とはどのような普遍的特徴をもった現象か ③「時間」は時代や社会を通じてどのようにイメージされ、どのように体験されてきたか ④自然物であり文化物でもある「身体」は、時代や社会によってどのように理解され、体験されてきたか						
到達目標	この授業の到達目標は、次の3つになります。 ①文化とは何か、文化人類学とはどのような学問か、その基本的な考え方と議論が説明できるようになる ②文化の普遍性と多様性をめぐる基本構造とその事例が説明できるようになる ③「当たり前」「明らかだ」「これが正しい」という常識を見つめ直し、別の可能性があることを想像する視点を身につける						
「共愛12の力」との対応							
識見			自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力
共生のための知識	○		自己を理解する力			伝え合う力	○
共生のための態度	○		自己を抑制する力			協働する力	○
グローバル・マインド	○		主体性		○	関係を構築する力	○
教授法及び課題のフィードバック方法	講義形式とアクティブラーニングを組み合わせた授業を行います。具体的には次のように授業を進め、提示した課題へのフィードバックを行います。 ・コメントシートの提出、あるいは挙手による発言に対して、授業中あるいは次回授業においてリプライします。 ・授業外課題、授業中の映像資料、配布資料に基づく課題について、グループディスカッションを行うことがあります。全体で意見と質疑応答を共有し、授業の最後あるいは次回授業において、グループワークに対するコメントと講評を行います。						
アクティブラーニング	○		サービスラーニング				課題解決型学修
受講条件 前提科目	「私(たち)は正しい」と思っていることを批判的に考えてみたい受講生を歓迎します。授業では文化人類学に関連するトピックスや事例を通じて、複数のものの見方と批判的なまなざしを養っていきます。「すべてについて何ごとかを知らう」とし、関心や共感や好奇心を抱いた「何ごとかについてすべてを知る」という心構えで臨んでください。						
アセスメントポリシー及び評価方法	評価方法は以下の得点配分で行い、最終評価は総合的に判断します。 参加点: 授業中の質疑応答や議論における発言、グループワーク、コメントシートの内容、授業課題への積極的な取り組みを含めた参加の「質」50% 期末課題: 期末レポート 50% 評価の基準は、レポートの内容と形式に関する「評価ルーブリック」(事前に配布)を基に行う。						
教材	購入が必要なテキストはとくにありません。授業時の資料(レジュメもしくはパワーポイントスライド)、予習復習のための資料を適宜配布します。						
	授業への理解を深めるために、以下の副読本を参考にしてください。授業のなかでも適宜参照します。 【文化人類学の入門的なテキスト】 斗鬼正一、『目からウロコの文化人類学入門—人間探索ガイドブック』ミネルヴァ書房、2003年。 祖父江孝男、『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1990年。 山口昌男、『文化人類学への招待』岩波新書、1982年。 内堀基光／奥野克己、『改訂新版 文化人類学』放送大学教育振興会、2014年。 山下晋司／船曳建夫、『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣双書、2008年。 綾部恒雄／桑山敬己編、『よくわかる文化人類学 第2版』ミネルヴァ書房、2010年 【文化と人類に関連するテキスト】 Y.N.ハハリ、『サビエンス全史(上)(下)—文明の構造と幸福』河出書房新書、2016年						

参考図書	吉見俊哉、『現代文化論—新しい人文知とは何か』有斐閣、2018年
	<p>【贈与交換の文化人類学】</p> <p>B.マリノフスキ、『西太平洋の遠洋航海者—メラネシアのニューギニア諸島における、住民たちの事業と冒険の報告』(増田義郎訳)、講談社学術文庫、2010年。</p> <p>M.モース、『贈与論』(森山工訳)、岩波文庫、2014年</p> <p>K.ポランニー、『経済と文明—ダホメの経済人類学的分析』(栗本慎一郎／端信行訳)、ちくま学芸文庫、2004年。</p> <p>【時間の文化人類学／社会学】</p> <p>真木悠介、『時間の比較社会学』岩波書店、1997年</p> <p>A.メルッチ、『ブレイン・セルフ—惑星社会における人間と意味』(新原道信／長谷川啓介／鈴木鉄忠訳)ハーベスト社、2008年。</p> <p>【身体文化人類学／社会学】</p> <p>B.ターナー、『身体と文化—身体社会学試論』文化書房博文社、1999年</p> <p>大野道邦ほか編、『身体社会学』世界思想社、2005年</p> <p>A.メルッチ、『ブレイン・セルフ—惑星社会における人間と意味』(新原道信／長谷川啓介／鈴木鉄忠訳)ハーベスト社、2008年</p> <p>Y.N.ハリ、『ホモ・デウス(上)(下)—テクノロジーとサピエンスの未来』河出書房新書、2018年</p>

内容・スケジュール			
1週目			
授業学修内容	<p>【イントロダクション 授業概要説明】</p> <p>・文化人類学の問いと関心は何か？</p> <p>・ヒトと動物の決定的な違いは何か？</p>		
授業外学修内容	「文化」という言葉から思いつくことをできるだけ書き出し、次回の授業で発表できるようにする。	時間数	2
2週目			
授業学修内容	<p>【文化の普遍性と多様性①】</p> <p>・「文化」という言葉に通常私たちはどのような意味を込めて用いているか。前回の課題を用いたミニグループワークもしくは質疑応答を行う。</p> <p>・「文化」とはどのような意味か。文化人類学の定義を学習する。</p>		
授業外学修内容	新聞紙から「文化」に関する記事を1つ選び出し、その内容がなぜ「文化」に関連したものといえるのかをまとめる。	時間数	2
3週目			
授業学修内容	<p>【文化の普遍性と多様性②】</p> <p>・「文化」の定義について、前回の課題を用いたワークショップを行う。</p>		
授業外学修内容	文化人類学の事典に掲載されている「文化」の説明を読み、次回の授業で自分の理解を発言できるようにする。	時間数	2
4週目			
授業学修内容	<p>【贈与と交換①】</p> <p>・「タダより高いものはない？ それともタダより安いものはない？」贈与交換をめぐる文化人類学の議論を学習する。</p>		
授業外学修内容	配布資料(Moodleに掲載)を読み、自分の理解をまとめ、説明できるようにする。	時間数	2
5週目			
授業学修内容	<p>【贈与と交換②】</p> <p>・モノのやりとりは「モノ」以上の「力」を生み出すことについて学習する。贈与交換から生まれる「力」が人間関係、経済行為、現代社会にもたらす効果と影響を文化人類学の視点から考える。</p>		
授業外学修内容	贈与交換に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
6週目			
授業学修内容	<p>【時間とは何か①】</p> <p>・時間とは何か？ 過去の文明はどのように時間を測ろうとしてきたのか？</p>		
授業外学修内容	時間の社会史に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2

7週目			
授業学修内容	【時間とは何か②】 ・社会のスケジュールによって測定される時間と個人の身体のなかで刻まれる体内時間はどのような関係にあるのか？		
授業外学修内容	時間の体験に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
8週目			
授業学修内容	【時間とは何か③】 ・社会の時間と体験の時間のずれに対して、現代の私たちはどのように向き合うのか？ ・映像資料をもちいたグループディスカッションを行う		
授業外学修内容	社会的時間の体験的時間に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
9週目			
授業学修内容	【時間とは何か④】 ・社会の時間と体験の時間のずれは、現代社会にどのような社会的および個人的課題を生み出しているのか？ ・配布資料をもちいたグループディスカッションを行う		
授業外学修内容	ワークショップに関する資料(Moodleに掲載)を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにする。	時間数	2
10週目			
授業学修内容	【身体とは何か①】 ・「美しい」「健康な」「正常な」身体をめぐる広告のスペクタクルの現状と課題とは何か。		
授業外学修内容	身体をめぐる広告を取り上げ、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
11週目			
授業学修内容	【身体とは何か②】 ・身体は「自然」か、「文化」か？ 身体は文化人類学の視点からどのように議論されてきたか。		
授業外学修内容	身体の人類学に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
12週目			
授業学修内容	【身体とは何か③】 ・私たちの身体はどこまで自由か？ 身体をめぐる「見えない権力」とはいかなるものか		
授業外学修内容	身体と権力に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
13週目			
授業学修内容	【身体とは何か④】 ・身体の出来事は「運命」か、「選択」か？ 生老病死をめぐる選択のパラドクスとは何か？ ・映像資料を用いたグループディスカッションを行う。		
授業外学修内容	身体と選択に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
14週目			
授業学修内容	【身体とは何か⑤】 ・身体の不具合を「解決」か、「聴く」か？ 身体をめぐる2つの見方		
授業外学修内容	身体に関する参考文献の一部を読み、内容の要約と自分の理解を説明できるようにまとめる。	時間数	2
15週目			
授業学修内容	まとめ ・授業内容の総括とふりかえりを行い、得た知見と見識を共有する		
授業外学修内容	Kyoai Career Gateを活用してリフレクションを行う	時間数	2
上記の授業外学修時間の合計		30	
その他に必要な自習時間		60	

Number	ANT-2-001-k	Subject	Cultural Anthropology		
Name	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada)	Year and Semester	S First semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>Cultural anthropology has been developed around the fundamental question "What is human being?" And what has been clarified so far is that people created all kinds of "culture" to survive (universality of culture), but how such "culture" appears is quite diverse depending on the environment (cultural diversity).</p> <p>In this course, we will take the following topics, while keeping "universality" of culture and "diversity" as the two wheels.</p> <p>① What is "culture", what is the unique perspective of cultural anthropology</p> <p>② What is the universal structure of culture that is commonly found in "gift and exchange" phenomenon</p> <p>③ How "time" was imaged and experienced through periods and society</p> <p>④ How "the body", which is both natural and cultural, has been understood and experienced by times and society</p>				